



# ユツユツ とことん

大仙市立太田中学校  
令和4年8月23日  
NO. 56



うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

## この夏の感激・感動

野球大好きの私は、毎年この時期楽しい時間を過ごすことができます。コロナ禍の中で最大限配慮して3年ぶりに一般観客を入れて開催された“第104回全国高校野球選手権大会”。仙台育英高校の東北初の優勝、その他多くの試合の勝敗、試合の内容はもちろんです。表にはあまり表れない数多くのドラマやエピソードにも感激・感動しました。毎年選手宣誓も楽しみの一つです。熱い思い、様々なキーワードを感じ取れる今年の選手宣誓は下の通りでした。

### 宣誓

今年野球伝来150年の節目に当たります。この記念すべき年に、聖地・甲子園球場で野球ができる喜びに今、満ちあふれています。

ただ、今現在収束しないコロナウイルス感染症の予防に最大限努め、日々の生活を送っています。

これまでケガで思うように野球ができず、グラウンドにさえ立てない時期もありました。また、チームをどうまとめいくかと悩むこともありました。

これらの苦しい時期を乗り越えることができたのは、ほかでもない、ここに甲子園があったからです。そして、指導者の方々、チームの仲間、家族との強い絆があったからだと確信しています。だからこそ、結束力のある野球で恩返ししたい。

一球一球に全力を注ぎ、一投一打に思いを乗せ、高校生らしく堂々と、はつらつと、そして、感謝と感動を、高校野球の新たな歴史に名を刻めるように全身全霊でプレーをし、最高の夏にすることを誓います。

令和4年8月6日 選手代表

横浜高等学校 主将 玉城陽希

8月6日に始球式に登板したのが元プロ野球選手の齋藤佑樹さん。16年前、今でも語り草になっている齋藤さんたちの試合に心躍らせ、胸を熱くした方々も多いことでしょう。私もその一人です。

夏休み明け集会で子どもたちにも紹介しましたが、その齋藤さんが球児の思いを後押しし、応援するメッセージが今年の夏、私の心に最も残っていることです。知っている方も多いかと思いますが、公開された齋藤さんの直筆の手紙は、次の通りです。

### この夏にすべてをかける君へ

暑い日が続きますが、体調など崩していないでしょうか。体格も投げかたも似ている、そして夢が叶うことを1ミリも疑っていない君と出会ったときから、僕はずっと、16

年前の自分を重ねていました。その夢はきっと叶うよ。とは、僕は言いません。勝負はわからないから。おなじ夢を持った人たちのぶつかりあいだから。

ただ、今のまっすぐな君のまま、どうかこの夏のマウンドに立ち続けてください。

これから先、グラウンドでもグラウンド以外でも、君をいろんな出来事が待ち受けています。

僕のように、不安だらけの時期を過ごし、挫折を味わうこともあるかもしれません。

それでもなんとか前を向くために必要なもの。それは記憶だと思えます。

過去の栄光、だなんて言われることもあるけれど。

**最後まで闘い抜いた記憶は、未来を生きる大きな力になります。**

なんて、大舞台がすぐそこだってときに、先の話なんてされたくないか。

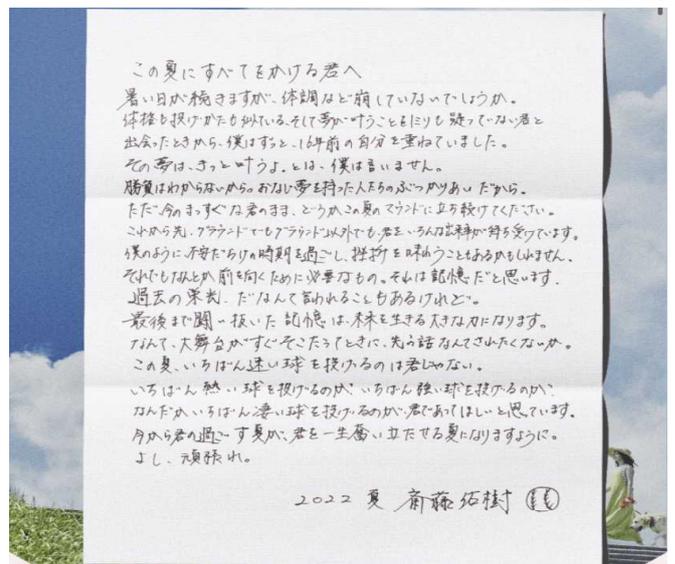
この夏、いちばん速い球を投げるのは君じゃない。

いちばん熱い球を投げるのが、いちばん強い球を投げるのが、なんだかいちばん凄い球をなげるのが、君であってほしいと思っています。

今から君の過ごす夏が、君を一生奮い立たせる夏になりますように。

よし、頑張り。

2022夏 齋藤佑樹



勝負の行方は分かりませんが、全力で闘い抜いた経験は、いつか自分の支えとなってくれるはずです。

夏休みを終え、昨日のNo. 54に前期後半に臨む太中生への願いを書きました。おこがましいのですが、齋藤佑樹さんの手紙と相通じるものがあると思っています。太中生も太中職員も、全力の日々を過ごしていきたい、そう思っています。